

読 響  
YOMIKYO  
Yrs.  
1962-2022

**SYLVAIN CAMBRELING** Conductor

**TATSUKI NARITA** Violin

**HIDEJIRO HONJOH** Shamisen

**DEBUSSY** Jeux  
Iberia (from "Images pour orchestre")

**ICHIYANAGI** Double Concerto for Violin and  
Shamisen (World Premiere)

**VARÈSE** Arcana

Yomiuri Nippon Symphony Orchestra  
Subscription Concert No. 622

**Tue. 25 Oct. 2022 19:00**

**Suntory Hall**

主催:読売新聞社、日本テレビ放送網、読売テレビ、読売日本交響楽団

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

協力:アフラック生命保険株式会社

令和4年度(第77回)文化庁芸術祭参加公演

読売日本交響楽団 第622回 定期演奏会

ドビュッシー：遊戯

一柳慧：ヴァイオリンと三味線のための  
二重協奏曲（世界初演）

ドビュッシー：イベリア（管弦楽のための「映像」から）

ヴァレーズ：アルカナ

# “色彩の魔術師” カンブルランと巡る ドビュッシー、ヴァレーズ、一柳

2010年～19年3月まで9年間にわたり常任指揮者を務め、数々の名演を残したフランスの名匠カンブルランが、3年半ぶりに読響《定期》に登場する。

コロナ禍で2度も中止を余儀なくされたが、今度こそカンブルランのカラフルで鮮烈なサウンドが聴けるだろう。披露するのは、20世紀から今日までを、パリ→ニューヨーク→東京と巡りながら結び合わせたような、カンブルランらしい発想豊かな4曲だ。

プログラムの核となるのは、20世紀に新たな音響を追求した作曲家エドガー・ヴァレーズ。19世紀末にパリに生まれて、ドビュッシーとも親交を持ち、1915年からニューヨークに渡り、アメリカに帰化した。1927年に初演した巨大編成の「アルカナ」は、多様なモチーフが絡み合いながら、そこに多数の打楽器の斬新な音響が加わり、西洋音楽の持つ様式美を熱量高くアヴァンギャルドに表したものの。この類の作品に長けたカンブルランによる冴えた音響構築に期待したい。

この核への“橋渡し”をするのは、20世紀初頭に書かれたドビュッシーの二つの作品（「遊戯」と「イベリア」）。近代フランス音楽から「現代音楽」へ連なる作品と言えるだろう。フランス音楽で圧倒的なセンスを発揮するカンブルランは、スコアの細部まで精密に音を作り上げ、透明度の高い明晰な響きを築くだろう。

ドビュッシーの二つの間に、多くの“Toshi伝説”を残し、89歳の今も創作活動がますます盛んな一柳慧の新作が挟まる。1950年代にアメリカに留学してジョン・ケージらと親交を深め、実験的な活動を展開した一柳は、ケージの紹介で晩年のヴァレーズとも会っている。日本の現代音楽を率いてきた一柳のヴァイオリンと三味線を用いた独創的な新作が、カンブルランの指揮で世界初演される貴重な機会となるだろう。現代作品に秀でた“憑依系ヴァイオリニスト”成田達輝と、邦楽界に新たな風を吹き込む三味線の本條秀慈郎が、クラシックのフレームを軽々と歪ませ、新たな世界を作り上げる。

桂冠指揮者

シルヴァン・カンブルラン

色彩豊かな音楽作りで、読響を世界のトップレベルへと導いた名匠。1948年フランス・アミアン生まれ。2010年から9年間、読響常任指揮者を務め、古典から現代まで幅広いレパートリーを演奏し、高い評価を得た。19年4月から桂冠指揮者の任にある。バーデン・バーデン・フライブルクSWR響の首席指揮者、ベルギー王立モネ歌劇場、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト歌劇場の音楽総監督などを歴任。現在、ハンブルク響の首席指揮者、クラゲフォルム・ウィーンの名誉首席客演指揮者を務めている。17年11月には読響とメシアン「アッシジの聖フランチェスコ」を披露し、サントリー音楽賞に輝くなど、絶賛された。

©読響

ヴァイオリン

成田達輝

卓越した技巧を持ち、熱いパッションを漲らせる実力派。パリ国立高等音楽院で学ぶ。ロン＝ティボー国際コンクール、エリザベート王妃国際コンクールで第2位となり注目を集めた。クリヴィス、アルトリヒテル、インキネラの指揮で、ルクセンブルク・フィル、プラハ響などと共演。21年1月には、ヴァイグレ指揮、読響とハルトマン作品を演奏し、絶賛された。ホテルオークラ音楽賞、出光音楽賞など受賞多数。現代作品にも意欲的に取り組んでいる。使用楽器は、宗次コレクションから貸与された1711年製のストラディヴァリウス「タルディーニ」。

©Marco Borggreve

三味線

本條 秀慈郎

演出家・蜷川幸雄や作曲家・一柳慧から絶賛される三味線演奏家。本條秀太郎に古典・現代音楽を師事。桐朋学園短期大学部卒、ACCフェローによりニューヨークへ留学。文化庁文化交流使に任命され世界30公演、英国ウイグモア・ホールでリサイタルを開催。19年には藤倉大「三味線協奏曲」をNYリンカーンセンターの音楽祭で世界初演。坂本龍一と3度共演し委嘱曲「hon」などを演奏。芸術選奨文部科学大臣新人賞、文化庁芸術祭新人賞、出光音楽賞など受賞多数。22年カリフォルニア大学ディヴィス校とベイツ大学のアーティスト・イン・レジデンスに選出された。

読売日本交響楽団 第622回 定期演奏会

2022年 10月25日(火) 19時開演

サントリーホール

東京都港区赤坂1-13-1 Tel. 03-3505-1001

S ¥7,600 / A ¥6,600 / B ¥5,600 / C ¥4,100

●東京メトロ南北線「六本木一丁目」駅(3番出口)より徒歩約5分 ●東京メトロ銀座線「溜池山王」駅(13番出口)より徒歩約7分

■学生券 学生の方は、開演15分前に残席がある場合、¥2,000で入場できます(要学生証/25歳以下)。ただし席を選ぶことはできません。開演1時間前から受付で整理券を配布します。

■都合により曲目、出演者等が一部変更される場合もございます。 ■ご購入いただいたチケットは、公演が中止になった場合以外でのキャンセル・払い戻しはできません。あらかじめご了承ください。 ■未就学児のご入場は、固くお断りいたします。 ■マスク着用など、読響の「感染予防対策」にご協力をお願いします。

読響チケットセンター 0570-00-4390

\*10時～18時・年中無休

読響チケットWEB <http://yomikyoku.pia.jp/>

\*座席選択可/チケット郵送料無料



プレイガイド

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017

読響ホームページ

<https://yomikyoku.or.jp/>